

平成16年度の相談実績

東京都教育相談センターに寄せられた電話相談、来所相談の実数です。

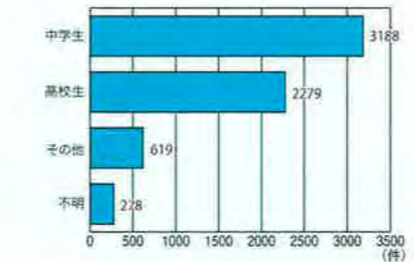
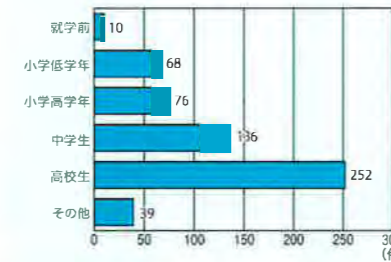
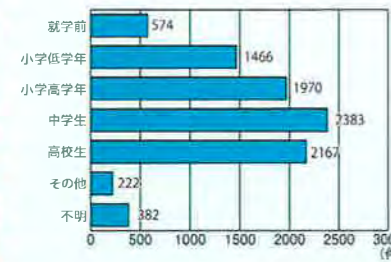
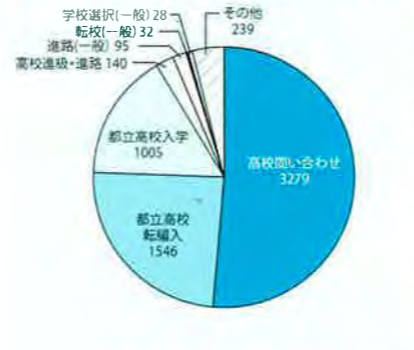
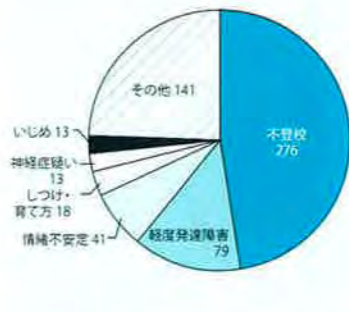
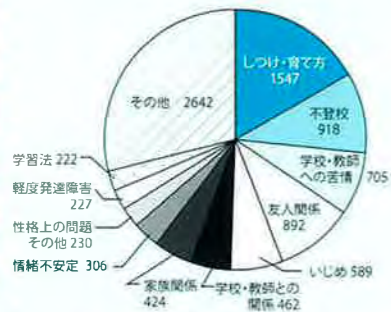
①子育てや子どもの性格・行動、学校生活などに関する相談

電話相談(9164件)

来所相談(581件)

②高校の進級・進路・就学に関する相談

電話相談と来所相談の合計(6364件)



新規事業！ 青少年リスタート事業

高等学校を中途退学した方やその保護者を支援するために、本センターに「青少年リスタートプレイス」を設置しました。電話や来所による個別相談や情報提供、関係機関の紹介等を行います。

- 対象者 都内在住または在勤で、原則として、高校生年齢相当の方とその保護者の方
- 相談内容 ①高等学校への編入学、再入学 ②高等学校卒業程度認定試験 ③就労に関すること ④心理的な相談 その他進路全般について
- 相談時間 平日9:00 ~ 17:00
- 相談場所等 電話相談 03(3493)8008 来所相談 目黒区目黒1-1-14 東京都教育相談センター内
- その他 案内リーフレット等において登録された方には本センターから情報を提供します。

第1回東京都教育相談センター進路相談会

～学校に行っていない子どもたちのために～

昨年度から実施している進路相談会です。今年度は、高等学校を中途退学した方々への就労についての内容も盛り込みました。「高校を中途退学したが、これからの進路についての情報が知りたい」「中学生で不登校だが、卒業後の進路についての情報が知りたい」などの切実な声に応えます。進路についての情報を知る全体会と、個別の進路相談会を行います。全体会では、都立チャレンジスクールからの話、東京しごとセンターからの就労の話もあります。

- 参加には申し込みが必要です。
- 詳しくは、東京都教育相談センターホームページ (<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>) をご覧いただくか、電話(03-5434-1982)でお問い合わせください。

期日・場所

- ◆平成17年 8月20日(土) 東京都多摩教育センター(立川)
  - ◆平成17年 8月27日(土) 本センター(目黒)
- 両会場とも 高校生年齢相当 9:30~12:50  
中学生 13:00~17:00

5年目の節目を迎えた東京都教育相談センター

東京都教育相談センター所長 賀澤 恵二

平成13年4月、従来の東京都立教育研究所相談部及び多摩教育研究所教育相談室を発展的に統合して開設された本センターは、今年、5年目の節目を迎えました。社会状況の変動の中で、大人でさえ自分を見失いがちな今日、悩みや不安を持つ子どもたちの生活環境も大きく変化してきています。これらの状況を考えると、5年が経過しても本センターの存在意義は、増すことはあっても減ずることはないと考えています。

本センターとしてもこの示された方向性に沿って、今年度は次の施策を展開します。

(1) 「再出発の拠点」

—青少年リスタートプレイスの開所—

既にマスコミ等にも大きく報道されたところですが、全国の自治体では初めて高校中退者を対象に、電話や来所による個別相談で学校復帰及び就労を援助する「青少年リスタートプレイス」を開所しました。高校中退後、復学や就労に悩む人たちにとってまさに「再出発の拠点」となるよう相談を受け入れていきます。



(2) 都立学校における相談機能の充実

平成17年度東京都教育委員会主要施策では、「学校における相談機能の充実を図る」ことを謳っています。例えば、都立高校における教育相談体制は、けっして磐石と言いきれませんが、本センターのこれまでの経験からも、所員が校内研修会等で助言をすることにより、先生方にカウンセリング・マインドが広がることがわかります。都立学校における教育相談の土壌を培うことも大切な取り組みです。

(3) 関係機関との連携ネットワークの確立

これからの教育相談は、都と区市町村、区市町村同士、関係機関との連携ネットワークを一層強固にしていく必要があります。教育相談機関との連携事業においては、「ネットワークを活用した不登校・ひきこもりへの対応、特別支援教育における教育相談機関の役割、発達障害への援助、子どものトラウマ、児童虐待、学校への緊急支援の在り方」など、多様で困難な課題と向き合っている各区市町村の教育相談機関との連携を強化していきます。

今年度も、東京都教育相談センターへのご支援、ご協力をお願いいたします。

東京都教育相談センター案内

総合受付電話番号 03(3493)8008

○電話相談/平日 午前9時から午後9時まで  
土・日・祝日 午前9時から午後5時まで(年末年始等を除く)

\*高校進級・進路・就学相談は、平日も午後5時までです。  
\*上記以外及び休館日は、留守番電話及び電子メールにより対応しています。  
メール相談は、ホームページ<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>から、お入りください。

○来所相談/午前9時から午後5時まで(平日)

\*電話でお申し込みください。  
\*来所相談は立川出張相談室(立川市錦町6-3-1)においても応じています。



所在地/東京都目黒区目黒1-1-14





# 学校における不登校の予防と対応



平成16年度の文部科学省の調査では、全国で12万6000人の不登校（年間で30日以上欠席者）の小中学生がいることがわかっています。小学校では270人に一人の児童、中学校では30人に一人の生徒の割合で起こっている深刻な問題です。

## つかむ

### 子どもが発するサインの受け止め

小さなサインに気付いたら、注意深く子どもを見つめ、かかわっていきましょう。

## つなげる

### 関係する教職員との情報共有

一人で抱え込まず子どもへの多面的な見方を広げ、関係教職員間の共通理解、共通実践を行いましょう。

## つくる

### 校内サポートチームの構築

学校全体で情報を共有するとともに、各校の校務分掌に基づき、柔軟に組織づくりをしましょう。

## つづける

### 専門機関との継続的な連携

事例検討会を定期的に行い、校内サポートチームの対応についてアドバイスを受けましょう。

### 問題行動として現れていない段階、問題の兆候が見られ始めた初期段階

#### ◎人とかかわり方に注目しましょう。

- 昼食時、休み時間に元気がなく、他の子どもと交わらない。
- 投げやりな言動、ふざけをする。
- 授業中、集中せず精彩がない。
- 友達や教師に険しい態度を示すようになる。

※本センターホームページ「子どものサインに気付いていますか」を御活用ください。

#### ◎「欠席」に敏感になりましょう。

- 体の不調を訴え、保健室に行くことが増える。
- 遅刻・早退が増える。
- 休日の翌日に欠席することがある。
- 欠席の理由は「風邪」であるが、長引いたり、断続的に繰り返されたりする。

#### 対応

- 子どもの姿に目を向け、意図的な声かけをしましょう。
- 今まで仲のよかった子どもから、様子を聞きましょう。
- 家庭での様子を把握しましょう。

#### 対応

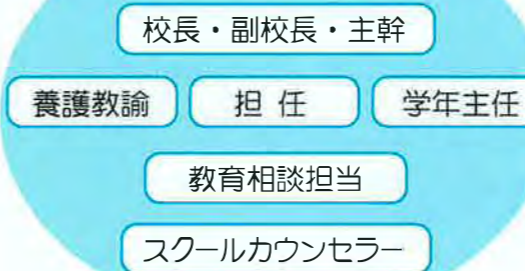
- 前担任、養護教諭など関係者から情報を集め、整理しましょう。
- 保護者と会って話す機会を設けましょう。



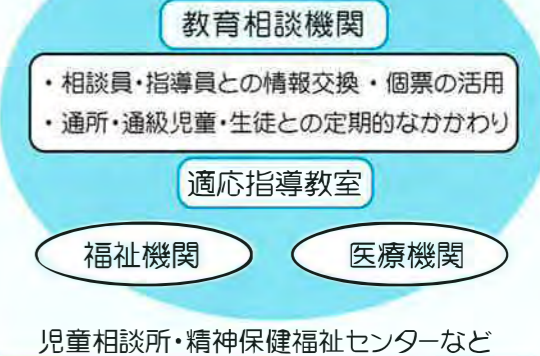
#### 対応

- 教職員間で役割分担を確認し、個々の子どもについて、校内支援体制を確立しましょう。
- スムーズな連携のため、個人情報取り扱いに十分配慮しつつ、個票などを作成し活用しましょう。

### 校内サポートチームの構成例



### 関係機関との連携



### 「心の居場所」「絆づくりの場」となる魅力ある学校づくりが不登校予防の土台になります。

各教科等において、個に応じた「分かる授業」を実践しましょう。



いじめや暴力を許さない学級づくりを進めましょう。



学校外の多様な人材や機関の協力を得た体験活動を進めましょう。



東京都教育相談センターでは、学校への支援として、**専門家及び学生アドバイザースタッフ派遣** **所員による要請訪問** 教職員からの相談

また、児童・生徒や保護者への支援として、**電話相談** **来所相談** **進路相談会** 等の事業を行っています。

●お問い合わせ先 **03-3493-8008**

なお、本センターの事業詳細及び関係機関のリストは、ホームページからご覧になれます。

<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>